

第4回徳島県耐震改修促進計画検討委員会（議事）

□日時：令和3年5月17日（月） 午前10時から午前12時

□場所：グランヴィリオホテル2階会議室

□出席者：（委員）

池添委員、逢坂委員、小谷委員、田口委員
（事務局）
県土整備部次長ほか

□次第：1 開会

2 挨拶

3 議事（1）徳島県耐震改修促進計画の策定に係る検討
（2）その他

4 閉会

□配付資料：資料1 第4回徳島県耐震改修促進計画検討委員会資料

資料2 徳島県耐震改修促進計画（案）の概要

資料3 第2回検討委員会での主なご意見への対応

資料4 パブリックコメントの実施結果について

資料5 令和3年2月定例会県土整備委員会等の質疑

参考資料1 徳島県耐震改修促進計画

□議事

1 開会

2 挨拶

県土整備部次長から挨拶

3 議事

（1）徳島県耐震改修促進計画の策定に係る検討

<議論の概要>

(A 委員)

それではですね、議題 1 番の徳島県耐震改修促進計画について事務局の方からご説明いただければと思います。よろしくお願いします。

事務局

資料説明

(A 委員)

それではですね、今ざっとご報告いただきました。パブリックコメントもこういった計画の割にはたくさん来ているなといった印象ですけれども、そんな否定的な意見は来ないと思います。皆さんも目を通していただいて、中身ついてご意見ある方いらっしゃいますでしょうか。

ひとつ特徴的だったのが単純に耐震化ではなくて、少しでもできることをちょっとずつやっていきましょうということを対策の上でも、あるいはアプローチの上でも専門家がいきなりポンと行くのではなくて、福祉部局の常に高齢者と接している人たちが行くのがいいんじゃないか。ただ福祉の方は今、高齢者との接触を避けているということなんですけども、その辺りも含めてどうしたらいいかっていう提案がなかなかないものではあるのですが、災害は待ってくれませんので、それに対してどうするか。

個人的に思ったのが、高齢者の集団接種が始まるのでそういったところにも少しパンフレットを置かせてもらってこともありうるかなって。

ちょっと気になるのが、地域包括支援センターっていう書き方をしちゃうと、それありきになっちゃうんですが、書き方としてここでの議論はこのセンターを使いましょうというより、常に関係性がある人たちにアプローチして頂くということが大事なんじゃないかと。ですので、特に大規模市町村の場合、包括支援センターより民生委員の方が地域の現場に入っている可能性もありますので、そこはできれば市町村毎に臨機応変に対応頂いた方がいいかなと気はしなくもないかなと思います。

今のわたしの意見もそうですが、ほか、皆さんいかがでしょうか。

実態調査のやつは3つに分けていただけると差が歴然という感じですね。沿岸は諦めていて、中央構造線でも沿岸でもないところは無関心という分かりやすいとか何というかどうかという結果ですけども。恐らく真ん中のエリアの人たちは地震というよりは土砂災害の方がリスクとして大きいと思いますね。

今回の計画点で、先ほどの山口次長の話でも実践をどうするかっていう話が出ていましたけど、この実践編についてはこれから考えるってことなんですかね。

(事務局)

そうですね。一般世帯についてはパンフレットもあるんですけども、高齢者世帯に対する減災化パンフレットをこれから作る予定にしまして、今、コロナっていうので福祉系の方が控えられてるっていう、このタイミングを生かしてですね、パンフレットを作ったり、福祉系の人にまず説明会みたいなのをしていくのが先決かなと思ってるところで、まあ、コロナがいつ落ち着くかにもよると思うんですけども、この機会を生かして準備

を進めていこうかなと思っております。

(A 委員)

できる準備をしっかりやっていく。そのアプローチをどうするかって極めて重要だと思うので、この計画としては、できることからちょっとずつっていうのと、そこから耐震化にレベルアップしていくという流れを提示していること自体で、ほぼほぼ役割を終えているかなと気もしなくはないんですけど。実際どうするかというところが肝ですよ。ここはみなさんいかがでしょうか。

(B 委員)

この計画案を実際どうしていくかっていうのを、自主防、町内会としては1番なんですけど、ケアマネとか介護の方は先ほどおっしゃっていたように動いてないんですけど、町内会や自主防災って1年単位で会長が変わって、何かをしなくちゃいけないっていう使命感がものすごいあるんですね、みなさん。ですから、うまいこと6月の議会に通って、できましたら、自主防や町内会で回覧板を、全県下ひとつの家に全部回っています。そういうのもひとつの方法かなと。これは県が動いていただいて各市町村、清掃の方だったかな、回覧板のメインになっていると聞いてますけど、そういう風な方向になったらみなさんに対してアピールできるんじゃないかと。

(A 委員)

あらゆるチャンネル全部駆使しましょうよっていうことですよ。

(B 委員)

せっかくここまでできとんで、今おっしゃった介護さんが止まっているからって、止めてたらまた2年も3年も動かなくなるし。

もうひとつあんまり言っていないかどうか、ちょっと記者さんがおるんで、今の北島の方でも、わたし今北島なんですけど、コロナの影響で核家族がまとまってきているんですよ。おじいちゃんおばあちゃん一人で生活できないんで、京都へ帰るんだとか、大阪へ行くんだとか、会社を変えてでも。逆に向こうからこっちへ入ってきてる方とかも増えてるんですよ。そういう家がちょっと見受けられてきたんです。わたしの方の地元でも空き家対策っていうのをちょっとやって、座談程度に聞いたら「まとまって生活せんと生活しにくいからな」って、ちょっとチャンスかなって思ったんです。ですから先ほどの町内会のやつではないですけど、うちの組織ではないんですけど、使っていただいてもいいんで、これを止めるのではなくて、ひとつのチャンスとして、コロナだからでなしに、コロナだからこそ、ひよっとしたら生活がしにくくなってるので、みんながまとまる方向性がこれから出てくるかもわからない。なんか啓発の方法を考える余地がある。

(A 委員)

それで言うと、転入届出すときにゴミのパンフレットとか渡されるじゃないですか。あれと一緒に多分、今、小谷さんがおっしゃったやつも基本的には一緒になるにしても、転入

してきてるわけですよ。転入するってことは多分、家財道具を入れ直す作業になるんでひとつチャンスかもしれないですね。ただ家財道具を入れ終わった後という気もしなくはないですけど。でもひとつのタイミングではありますよね。転入届のときに渡す資料一式の中に耐震補強の話、耐震化というか減災化の方が大きいかもしれないですけど、話は入れてもいいかなと。

今みたいに、どういうタイミングが消費者の側からしたときに考えやすいかっていうのを意識するとき、生活リズムが変わるタイミングというのがすごく分かりやすい。小谷さんがおっしゃったように外から人が来るとか、あるいは生活を変えると、転入届を出しているんで、そこに資料を入れるっていうのは、他いかがでしょうか

(C 委員)

全体的な計画自体の方針としては減災化というところと、先ほどA委員がおっしゃりました色んな繋がりを駆使して進めていくっていう方向性っていうのはすごくいいと思いますし、今回話をしたこともよく汲んでくださってありがたいと思います。

昨年度ぐらいから世の中のコマーシャルとかでSDGsがすごい言われていて、SDGsのマークつけたら何でもいいみたいになってきてますけど。そこで一般世帯まで落とすのにアピールするのであれば、この今やったら7、9、11だけがついていますけども、17のパートナーシップとか、パートナーシップを組んでやっていくっていうところも今までの街作りの土木的のところからソフトも駆使してやっていくっていうのもこの計画として押しでもいいのかなと少し感じました。

後は、高齢者の包括とかケアマネが止まっているということは、多分表面的な大きな目で見たらそうかもしれないんですが、私が福祉系の研究とかもしてるところからの視点でいくと、逆に命を守るという視点からすると、引きこもりになって、フレイルになって、虚弱になって、同じように命を失うという状況にならないために福祉部局、今すごく必死にどうつないでいくかっていうのを考えていて。徐々に、徳島はどうか分からないですけど、全国で見たら色んな声かけが始まってますし、NHKさんの特集とかでもよくされてるようになったりしてると思うのですが。全体で見たら止まっているように見えても何か進んでいることがあると思いますので、進んでいるところからやっていくっていうことを、パートナーシップじゃないですけども、防災担当の市区町村の担当の方に言ってもきっとわかんないと思うんですよ。そこを次の段階の実行案のところはどういう風にほんとに現場までしていくかって、民生委員さんが訪問をすごくしているんだよとか、この人だったら大丈夫だよとか、地域があるところまで、(? 21:40)もそうですけど。どういう風にほんとに具体的に落としていくか、絵に描いた餅にならないようにすごく大事になってくるように感じます。

お知らせができた後にもう一步、本当に減災化をしてもらうためには、前回委員会でも申し上げましたけども、高齢者だけだとか高齢者以外の若年層が居たとしても忙しかったりとかして、家具移動だったりとか具体的なことができないというか、そこまでいかない家もたくさん認識をしたところであると思うんですよ。そこでもう一步、シルバー人材センターでこういうメニューが増えましたとか、この市町村はこのビルに使うと補助金が出て減災化に対してもお得にできますよとか、何かそういう、もちろん情報を落として、プ

ラス一步進むための具体案も計画段階で作っていかないといけないかなと感じました。そうすると全体的にパートナーシップっていうマネジメントがあると思います。

事前説明のときにも言わせて頂いたんですが、1 番最後のブロック塀のところ、パブコメにも来ていましたけれども、これはいわゆる住宅の敷地内にあるものなので、耐震診断と一緒にブロック塀診断もするか、同じ部局の中でも個別訪問何回もせんでいいように、まずはできるところのパートナーシップから強めていくっていうのも必要なと思いました。

(A 委員)

はい、ありがとうございます。

確かに、どうしても住宅からいくと建築・建設部局にいつてしまつて、建設部局は、県庁ぐらいだと多少包括的に見られるんですけど、市町村ぐらいになつちゃうとほんとに技術者になつちやつて住宅のことしか考えてなかつたりするんで。耐震に限らずあらゆる施策が今、割と包括的にしなきゃいけないんですけど現場の方がむしろ縦割りにがんじがらめになってるところがあつて、これどうするかなあ、なかなか難しいなあと思つつつ、ひょつとしたら、これは今 C 委員がおつしやつたやつは耐震に限らずあらゆる施策に共通して言えることなんですよ。教育に関しても福祉に関してもですね、これは少し先進事例を作つていかなきゃいけないというか、モデル的取組みを作つていかなくちやいけないところはあつたのかとは思つました。難しいですね。

あともう一つ、さっきパブコメでブロック塀つて話があつたんですが、今のシルバーの話つて…委員会を出てるんですね。ひょつとしたら「命を守る取組」でイラストが描かれているようなところに、これ誰がやるかみたいな話をチラツと書いておいてもいいのかもしれない。お金的には補助できる仕組みもここにありますよ。詳しくはどこに聞いてくださいというのと。あと、人材的に不足している場合はこういうところに頼めますよ。詳しくはこっちに聞いてくださいとか。ひょつとしたらここに、ここにシルバー人材センター書くだけじゃなくて、盆正月、息子が帰省した時つていう書き方もあつてもいいかもしれない。

結局皆さん分かつてはいるけど、その瞬間にできないと判断したらそのまま忘れちゃうという可能性があるんで。このタイミングに是非というのを少し書いておくつていうのはいいかもしれないですね。そのリアリティをどうするかつていうのは大事かなつて思つます。

(B 委員)

ブロック塀は難しい問題で、田舎であればちょうど境界線に立つとんですよ。前のブロック塀はいけるんですけど境界線のところに、そしたら、もし建替えるとしたら折半になつてしまうんですかね。そういうんで前に進まない気がするんです。

(A 委員)

折半にするのか誰が出すのか、それは個別事例ごとの相談になると思うんですが、結局責任のなすりつけ合いじゃ解決しませんねつていう。

(B 委員)

A と B の境界線があったら、A の人はちょうどここで家を買ったから変えたい、B の人は半分あるんやけど今ずっと住んどるから別にこのままでもいいんじゃないか…。

(A 委員)

その調整を誰がするのか。民地・民地なんで民民でやらざるを得ない。

(B 委員)

あと医療のこと、先生おっしゃっていた今、ケアマネがどんどん入っているということ。

あともう一つ、病院のリハビリですか。ものすごい老人が多いんですよ。大きい病院とか1時間待ちとかしてるんで、そこで啓発できる。パンフレットを見ていただいたりするんですけど。方向性としてはすごく。ケアマネは止まってないと思うんです。動いている。

(A 委員)

まあ皆さんできることは少しづつやっちはいる状況だと思います。

ブロック塀に関しては、ちょっと書きようがないところがあると思うんですが、ちなみに事前説明で記憶しているのは、徳島県内に詳しくないのでブロック塀以外に、例えば以前新潟にいて地震にあったときにですね、大谷石の壁が結構崩れてですね。中に鉄筋が入っていても重さで曲がって崩れる。人の命というよりは道路閉塞の方が結構あって、徳島県内はどうなんですかね。石塀はそんなんじゃないかなというところなんですけど、それはそういう感じなんですかね。ああいうやつって、中に鉄筋が入っていても、とにかく現物非常に重いんで崩れると鉄筋を曲げて崩れるんですよ。そうすると避難路は完全に防がるんで、という気になったということがありました。

まあ個別の事例を細かく言い出すときりがないので。他いかがでしょうか。

あとですね、事前にパブコメ頂いたときに支援をどこまでするかっていうのも悩ましいなと思っていて。パブコメの14番のやつに転倒防止策、避難経路への照明設置費用への支援っていうのが出てるんですけど、これはつかえ棒に経済的支援をしてくれという話があるんですが、そこまで言い出すとちょっと正直キリがないなあというところもあって、お金がないからできないっていうのも分かるんですけど、そこまでやっちゃうと何でもかんでも支援の話になっちゃうし、色々流用案件みたいなものも出てきちゃう可能性もあるので、ちょっと僕考えたのが、徳島県って結構DIY講座をやっているわけですね。そこに自分でできる簡単DIY耐震みたいな話を少し講座的にできないのかっていう気がしてて、つかえ棒も結構自作できるし、壁への固定も自作できるんですけど、結構めんどくさいんですよ、なのでDIYの講習みたいなを見ると、じゃあ買おうかなって気になるというか。なんでもかんでも補助して欲しいって言い出しちゃうとキリがない気もするんで、まあ基本的な補助はやっぱりアドバイスとハード的なところが大ききなところかなという気がしてるんですけど、この辺りは皆さんどうお考えですか。

(B 委員)

やっぱり頼りすぎとんですよ。行政と市でして頂いて当たり前っていうのがあります。いやいや違うよと、ほんとに経済的に苦しい方なんかは支援をもらったらいけど、できる方はやってよって言うんですけど、できるの方が何か色んな知識があって、先に支援をもらって、そういうのを買ってる。我々がいつもやってるのはホームセンターに行ったら、そういうところがあって見に行こうなあって言って一緒に行ったりしてるんですけど。ちょっと意識を変えてやらないかん。何かのときの会で自分で作れるんだよとそれものすごい案だと思います。みんなの気持ちと意識を変えてやらんと。わたしも支援をまとめっとか言ったが、みなさん支援慣れをしてしまってる。

(A 委員)

どっちかっていうとわざわざ DIY 耐震講座に行くかっていうと行かない気がするんですけど、県として DIY 耐震 YouTube 動画みたいな作って行って、YouTube ぐらいだったら息子が見て、うちの親のどこやとくかって気になるかなって。

(D 委員)

YouTube いいと思います。

(A 委員)

ね！息子が見て、息子が帰省のついでにうちの親のベッドの周りちょっと何かやっておくかってことはありえますかね。県庁でできるかもしれないし、リアル講座なんかよりもハードルを下げるために何かそういうパッと見れる様なものがあるのもいいかもしれない。

(C 委員)

住宅課さんでブロック塀の点検訪問の YouTube を作ってますよね。

(事務局)

はい。

(A 委員)

じゃいいじゃないですか。

(C 委員)

こうするんやなーと思ったけどでもこれ難しそうやない？

(A 委員)

でもそういう心がけはあると徳島県内より他の県への訴求力高くなると思うんですけど、やれることはやるという意味ではあっていいかなという気はしますね。

(C 委員)

そこにちゃんとお金つけた方がいいと思うんですよね。きっとそのブロック塀のやつも職員の方が一生懸命されたんやろなって。お金つけてきちんとしたものを見ようかなって思うそういう層って YouTube を見慣れているので。パンフレット作ると同じぐらい動画っていうのを同じ価値、それ以上あるかもしれんっていうのをね。

(A 委員)

コロナで YouTube にしても DIY にしても相当なんか訴求力が上がっているところがあるので、多分、都市部に出てる子供たちはなかなか実家に帰れなくて気になってるところだと思いますので。帰ったときにこれやとけってという話をいっぱいあげとくっていうのはあるかもしれない。

(B 委員)

その貸出が、先生がおっしゃった、そういう貸出ができるのであれば町内会のみんな、さっきも言ったように何かしたいけどできないっていう人が多いんですよ。ですから逆にそれを県の方が貸出をして頂いたら、市町村から落としたりしたらほんと末端が見ることができるかもわかりません。

(A 委員)

タブレットの貸出？

(B 委員)

それを市町村に落として、「町内会で言うてくれたら町内会の会いつあるの？」「ほなそこに貸し出ししてあげるよ」とか言うて。町内会の会で公民館今使えませんが、テレビがあるんで、そこでみんなで勉強できると思うんです。

(A 委員)

まあそれはケーブルテレビを使うっていう手もあると思うんですよね。YouTube 抜いちゃえば。色んなチャンネルで。僕、ちょっと馬鹿にしてた部分もあるんですけど、動画の訴求力がすごく強いつて最近すごく自覚してるんで。あと、たぶん素人が作ると説明が上手じゃなかったりするんで、だからひょっとしたら県内でそういうの得意な人に協力してもらって。

(C 委員)

わかりやすくイメージしやすいような、且つちゃんと接点を持てるような YouTuber とか。

(A 委員)

そうですね。専門家と YouTuber がコラボするとか。

(C 委員)

今、そのブロック塀の話がこちらに物ははいってきてないんですけど、ブロック塀で県南とかでされているのって、牟岐の中学生だったりとか、子供たちと一緒に町の点検をしながらチェックしていったりとかになっているから、やっぱり子供とかを交えて、更に蜜じゃないことができるとか、結局、教育レベルまで落ちていくことになるんですよね。教育系のパンフレットでも高知県さんが小学生、中学生向けに作ってるパンフレットがすごいクオリティが高いんですけど。県のホームページからダウンロードできるようになってたんですけど、高知の場合は。そういうブロック塀もそうだし、教育レベルでもそうですし、大人から子供まで減災化として何ができるかみたいな。広報で今まで紙で配っていたところ、そうでないとか、広報も、目が肥えている人が増えているというところ。小学生でもタブレットで勉強してますから、その辺で小学生が見てもできることもあるかもしれないし、一緒にお手伝いできるかもしれないという巻き込み方を決めて、新しい視点でいけたらいい。

(A 委員)

是非ご検討いただければと思います。計画の中身と言うよりは、これをどう運用するかというところ。

計画の中身としては、ちょっとみなさんザーッと見ていただいて、抜けがありそうなところがもしあったら...どうですかね。ある方針としては何か補助するというよりはやっぱりきちんと色んなチャンネルで啓発をして、できることを行政的にはかなり突っ込んでるところがあるので。地域の皆さんにも少し前へ踏み出すような仕掛けは県としてはできる。踏み出してもらわないと。

(B 委員)

ひとつですね、委員長にお願いしたいのは、計画立てるってことは、前も話が出たと思うんですけど、どこかで終着せないかんし、期限をもってせないかん。そのために計画が出てるんですけど、その期限っていうのはその考えの見直し見直しっていうのが、そこで終わるっていうのではなしに長くしていただくっていうことが、100%今から2年後3年後できるわけではないんで。大体いつまで目標っていうのを立てられると思うし、県の議会だったらそうなると思うんですが...

(A 委員)

一応、令和6年になっている。

令和6年の段階でどこまで達成できたかということと、やっぱりそこで再度分析が必要で、結局今回もそうですけど県南と中央構造線は理由がはっきりしているのでわかりやすいんですけど、やっぱり課題は県央というか、無関心層ですよ。だから、ひょっとしたら令和6年の段階で問題になるとすると、今回のキーワードはお金が経済的な理由でできない人達にちょっとでもできることをやりましょうっていうのが今回のかかなり大きなポイントだと思います。やっぱり最後まで残っちゃう一番大きな課題は無関心の人たちに対し

でどうアピールするかなんですね。だからたぶん令和6年の段階で今回その減災化にというキーワードに対してどれぐらい成果が、効果が出ているかってことは恐らく検証する必要があって。一方で全然手付かずのことを次の計画として考えていかなくちゃいけないと思うんですが、ただ、あまり延長ありきでやりすぎちゃうと今度は後ろに倒れていっちゃうんで。基本的にはやっぱり今回で決着をつけるという、県としたら強い意志をお持ちで減災というキーワードを出してるかなあという気がするんで。

まあ、ただ今回の減災もそうなんですけど、耐震100%から減災、命を守るに切り替えたのは恐らく、よりリアリティを追及してるという作業だと思うんですよね。空想的に100%というよりリアルに命を守るというところがありますんで、そのあたりは県庁としてあまり現実を直視していないわけではない気がします。

ですので今から計画の延長ということは言いにくい。ただ、現実には即して計画の修正もあるし、必要に応じてっていうことは考えられる。

とにかく、リアリティの高い実行力のある計画にするっていうことがやっぱり大事だということ。

他いかがでしょう。

(C 委員)

事前説明から数値が流されたっていうところだけ一回お聞きしたいのですが。これは具体的計画案の中でもう一回考えるということですか？それとも計画の中で数値を乗せていないということですか？

(事務局)

数値は、中でも話がありまして平成30年のとき住宅土地統計調査の段階でいきますと5万戸ぐらい木造住宅で耐震性がないのがあったんですけども、その中で建替えもあるだろうし、5万戸がありきだったら物理的に人の手配もさすがに厳しくなってくるんで、そこらへん踏まえていくともうちょっと数が減ってくるのかなって話もあって、今回、数は減らしたんですけども。そこはあんまり書いてしまうとですね、具体的な話から逸れてしまうような気がしたんで今回資料も外させて頂きましたし、計画の中にも入れるつもりは今んとこないんですけど。事前にお示ししたやつは5万戸ベースで一般世帯と高齢者世帯に分けて、3割ぐらいは高齢者、残りは一般世帯を4年で割って、年間1万戸とかそういう数になってたんですけど。今、年間新築が4千~5千ぐらいありますし、その内大半が建替えていくことを考えますと、5万がもうちょっと減るんじゃないかっていうんがあって、我々事務局サイドとしてどれぐらい行かなあかんかっていう計画もこれから立てていくんですけど、そこらへん踏まえて事務的に対応しようとかかなと思っています。

(A 委員)

はい、ありがとうございます。そういう意味でいうと、残ったのは一般的な高齢者世帯という特質とその他一般だけが残っているっていうことですね。

他いかがでしょうか。

(B 委員)

素直に言って、すごくして頂いたと思います。これだけしっかりとありがとうございます。

(A 委員)

計画に最近流行りの KPI は入れなくて大丈夫なんですか？

(事務局)

まああの死者 0 が。今まで耐震化 100 % となつてたやつを死者 0 に置き換えたつもりなんで。

(A 委員)

災害が起こったときにやっぱり振り返ることになる気はするけどっていう感じですかね。いや、変な KPI つけるよりは KPI つけない方がよっぽど僕はいいと思ってるんですけど。最近はこの KPI の締りが苦しいので。わかりました。ありがとうございます。他いかがでしょうか。

(B 委員)

連携言うたらここに……ね、事務局。今我々が何を言うよりか、ここに全部揃ってるような気がするんですけど。

(A 委員)

実際にものを動かすっていうのは、結局、包括的にならざるを得ないところがあって、そこは結構その人のキャラクターに依存するところがあって、このなかで議論されたのは、それこそあったかい議論をしてたんですね。どうやって地域の人たちに寄り添うか。これが文章化して市町村に落ちたときにどうやって温かみを冷まさずに市町村に温かいまま施策として伝えられるかがすごく大きなポイントで。今回のこのミソは単純に冷やかにこれをやってくださいという事務的な話ではなくてやっぱり地域の特に高齢者とかできない人たちにどう寄り添えるかっていうことを考えるところなので。

計画ってどうしても文章で冷たくなるんですけど、県の意味はできることを少しづつやろうという強い気持ちを持っているので、そこが市町村とか地域のみなさんに伝わっていくといいかなと思います。なかなかないですね、こんなあたたかい計画って。

(事務局)

今、委員もまとめて頂いたような話をもう少し丁寧に書くとすれば、例えばその計画をお渡ししてる案の 18 ページ目に、14 ページ目から住宅の耐震化という 3 番で始まって、その(3)で目標という形で死者ゼロを新たな目標にと書いておりますけども、今話題に出して頂いたような、特に今回耐震化にこだわらずというところで、それ以外の現実に即したリアリティのある命を守る取り組みってところをもう少し丁寧に書き込むようにすると県のその意図が市町村含めてもっと伝わりやすくなるのかもしれないなと思いましたん

で、そのあたり少し文章こちらで工夫させて頂くっていうのでいかがでしょうか。

(A 委員)

ひょっとしたら、「はじめに」かもしれないです。

この計画の意思をきちんと書いておく。県としての意思表示を明確にしておく。

(事務局)

であれば、その1ページ目の方の「第1章 計画の概要」の「1. 基本理念」の「死者ゼロ」を目指しますと書いてますが、「死者ゼロ」っていう目的自体は今までも一緒なんですけど、ただ、「死者ゼロ」を目指すためのツールとして、今までの耐震化っていうところを、まあ、だけとは言いませんが今まで主眼に置いてきましたけれども、もう少しリアリティのある手法ということで減災化みたいなものも今回の計画では取り入れていったんだということスタンスを明確にするっていう形でいかがでしょうか。

(A 委員)

いい思います。なかなかこの文章を一般の人たちがみんな丁寧に読んでくれるかっていうと読んでくれないんですが、書いておくのと、書いておかないのでは意味が違うっていう気がします。

(事務局)

記者さんが書いて頂けると信じて。

(C 委員)

計画全体でパッと目次見て、目標どうなっているのかなって見みますよね。「死者ゼロ」だけにするのか、取り組み方法みたいな、今回の委員会で議論があったをソフト面で寄り添いながら、パートナーシップを組みながら、それを構築すること自体も目標に入れるのかどうかということですよね。単なる「死者ゼロ」の最終結果でなくて、その過程で、そこまでを計画なのか。そのソフト面は実施案、今後の内容に含むのか。

(A 委員)

地域に寄り添ったっていう対応の仕方っていうのは書いた方がいいと思うんですよね。事前説明の時に、「包括支援センター」ってあるが、このセンターを使うことが大事なのではなくて、地域の人に寄り添うために一つの案として地域包括支援センターがあるということですよ。

パートナーシップもひとつの手段でしかないんですけど、あらゆる手段を通じてハード、ソフト両面から高齢者の「死者ゼロ」を目指すっていうのは書いてもいいかもしれない。それでSDGsの17番目入れろっていうのもそういうところだと思う。そうするとよりリアリティのある計画になる。他いかがでしょうか。

(C 委員)

普段、構造設計に関わっている身からすると、アンケート結果で関心がないとか大丈夫だと思っているという割合が多かったことに対して引っかかっているんですけども、どうやったら関心をもっていただけるのか考えたときに、地震を直接体験したりはできないんですけど、擬似的に体験会とかがあれば、怖さも増幅されてはしまうんですけど、関心につながって、耐震化につながらないのかなと思ったんですけど。

(A 委員)

やっぱり最大の難所は無関心層ですよ。

今のお話も無関心層の人たちが体験会に来るかということ来ないので、無関心の人たちにどう関心を向けさせるかということ、常にたゆまぬ努力をしなくちゃいけないということ、本人が無関心でも、周りの人たちが関心をもつというのも一つの手で、そのためにあらゆるチャンネルというのはあるのかなと。

これってあらゆる分野でそうで、福祉に関しても、健康に関しても、教育に関しても、一番難しいのは無関心層をどう前に向けるかということなので、そのためにあらゆる手を尽くしていかななくてはいけない。

(D 委員)

ちょっと前に話ができましたけど YouTube 動画とかそういうのも意識の改善につながっていくとか。

(A 委員)

だと思いませんか。意外に簡単にできるじゃんということをどう伝えるかだと思います。どうしても耐震化というと、響きも大事感がすごいあるとか、減災化っていうとみなさん言葉としてもあまりピンときていない。意外と手軽にできることが多いですよということを伝えるだけでもまだやる気がでる。

(B 委員)

今おっしゃんですけど、無関心ではないと思うんですよ。東北の震災が起きた時にはみんなそのニュースを見ている。関心を持ってるんです。タイミング・タイミングだと思うし、いかにそのタイミングを逃さずにこれを伝えられるのか。地震の体験と言いますが、あのときは県の防災センターに非常に多くの方がいらっしやっていた。自主防できたのも阪神大震災の時ですけど。タイミング。無関心ではないと思います。

さっき A 委員おっしゃっていたあたたかい計画でなんか話すきっかけさえできればと思います。

(A 委員)

だから、人は波があるので、ちょっと気になっているときに訴求できるかどうか。あとハードルが低いというのは大事で、そのためには手軽にできることやりやすくしていくというのはあって、そこから少し入門編じゃないけど。

今回その減災のできることからやって、そこから耐震化へというのは意外といいんじゃない

ないかと。

(B 委員)

ものすごいと思います。

(A 委員)

リアリティがあるというか、いきなり耐震化というとハードルがすごく高いので。やっ
ていくともうちょっとできる、で、ここは専門家の力、そうすると、耐震化の仕方ももう
少しバラエティが出てくる可能性もあって、それは考えられる個別対応の耐震化なので。
結構いいかなと。

(C 委員)

先ほどのどこまで支援するのにお金をつけるかという、お金の使い方の一つとして、無
関心層というかそこまで響いていない層に響くようなアプローチ、メディア使ったり、
YouTube 使ったり、いままで使っていないようなアプローチ方法にお金を使うべきだと思
っています。いままでみたいな行政の人が堅い感じの資料ではなくて、例えば、クリエイ
ティブなデザイナーの方、映画監督とか、そういう人に、徳島県全体の観光系の動画とか
を作ることによって県のイメージがすごく変わったりとか、そういうことにたぶん観光系
からお金の使い方が変わってきたと思うんですけど、そこを例えば大学案内ホームページ
だったり動画もそうなんですけど、そこにどれだけお金をつぎ込むかによって同じ内容やっ
ても見方って全然変わって

更に若い層ほどそれを見る目が肥えてる、徳島県人やからあんまりいいデザイン知らん
とかじゃなくて、どこにでもアクセスできるようになってるから、かっこいい動画だっ
たりとか見やすいものっていうのがすごいアクセスしやすくなっているんで、その動画ひ
とつで見よかなというのが一つできたら。

(A 委員)

どうも防災ってデザインから一番遠いところがあって、あらゆるものがかっこ悪いんで
すよね。防災袋から何から。そういうところもちゃんとしておかないと、どうしても義務
とか危機感だけでは動かない人たちが今もはや相手にしている。動く人はすでに動いてい
る。これが今の現状だと思うんです。そういう意味でいうとよりアウトリーチ的手法が必
要だなと。今まで訴求できなかった人に届かせるかということに対していろんなチャレンジ
が必要で、ちょっと計画の中身とは違うんですが、運用の面では考えていかなきゃいけ
ない。是非がんばっていただければと思います。

ではみなさん、ご意見なければ、時間早いですけれども、これで終わりかなと思います。
一応、今回4回目、最終回ということでしたけれども、みなさん結構忌憚のない意見を
たくさんおっしゃっていただいたので、実行力のある、ぬくもりのある計画ができたかな
と思います。これで議事を終わりたいと思います。それでは事務局にお返しします。

事務局挨拶

~略~

今日の委員会の中でも計画の話だけではなくて、計画の実効性を高めるための取組みのアイデアまでいろいろ御議論いただきました。DIY ですか、YouTube ですか、確かにアウトリーチしていくという意味では非常に重要なツールにこれからなっていくと思いますので、そういったところもぜひ取り入れたいと思います。

~略~

今日ご審議いただいた計画案、最後にですね、「はじめに」のところで、「寄り添う」ですか「パートナーシップ」というキーワードもいただきましたので、そういったもの補いながらさらに伝わりやすい計画ということでまとめた上で、6月議会のご審議にかけたいと思っております。

~略~